

JT Open

製品ライフサイクル全体にわたる

ビジュアライゼーション、コラボレーション、データ共有のためのオープンなプラットフォーム

fact sheet

Siemens PLM Software

www.siemens.com/plm

▶ 概要

JT™ Openは、ソフトウェアのユーザや独立系ソフトウェア・ベンダーを主要なメンバーとし、JTテクノロジーをベースにした単一のオープンな3Dビジュアライゼーション環境を標準化して世界的に普及させようと取り組んでいるユニークなコミュニティです。JT Openでは、今日の主要な製品ライフサイクル (PLM) ソリューション間におけるビジュアライゼーション、コラボレーション、データ共有のために既に広く利用されているJTテクノロジーをすべてのメンバーが平等に利用できるフォーラムを組織しています。

JT Open プログラムの利点

競合企業を含むすべてのメンバーに対して、JTテクノロジーとユーザ・コミュニティへの門戸が平等に開かれています。

企業メンバーは、ベンダー・メンバーが提供するクラス最高のアプリケーションを利用して、独自のJT対応アプリケーションを開発することができます。

ベンダー・メンバーは、JT対応製品を他のJT Openメンバーにロイヤルティ・フリーで販売することができます。

ベンダー・メンバーは、JTを取り巻くマーケットにコスト効率良く参入できる手段を得られます。

メンバーは、JTテクノロジーの将来について直接的で強い発言力を持つことができます。

JTテクノロジーの価値の拡大

JT Openは、エンド・ユーザ、独立系ソフトウェア・ベンダー、その他関係団体から構成され、今日の製品ライフサイクルにおける3Dビジュアライゼーション、コラボレーション、データ共有のための標準テクノロジーとしてJTを普及させるという共通の目的を持ったコミュニティです。

JT Openに参加することで、メンバーは下記の共通目的に向けて取り組むことが可能になります。

- パワフルなJT Open Toolkitソフトウェアの活用によってPLMバリューチェーン内の誰もがJTテクノロジーをオープンに利用でき、JTテクノロジーの幅広い普及を促進する。
- ユーザ、サプライヤ、顧客にJTテクノロジーの機能上の利点やコラボレーションの有効性を訴求することで、ビジュアライゼーション・データの共有化を促進する。

JT Openには、それぞれの関心に基づいて、下記のいずれかのメンバーとして参加することができます。

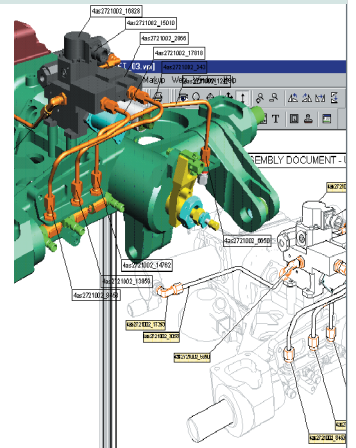
企業メンバー - さまざまな業務の中でJTをビジュアライゼーションやデータ共有のためのプラットフォームとして使用したいと考える企業。

ベンダー・メンバー - JT対応アプリケーションをJT Open企業メンバーに提供したいと考えるソフトウェア・ベンダー。

業界団体メンバー - JTをベースにしたベスト・プラクティスを推進したいと考える非営利の特定業界団体や異業種団体。

アカデミック・メンバー - 多くの場合、企業メンバーやベンダー・メンバーと提携して、JT Open Toolkitを研究や教育に使用したいと考える教育機関。

協賛メンバー - JT Openの活動やメリットに賛同して、サポートを表明したいと考える企業。一般的には、正式メンバーとして参加しないものの、JT Openコミュニティの目的を積極的にサポートしたいと考えるハードウェア・メーカー、ソフトウェア・ベンダー、サービス・サプライヤ。主な活動は、JT Openコミュニティのマーケティング活動への支援と参加。



JT テクノロジーの利点

製品ライフサイクル全体にわたって広く分散するすべてのユーザがそれぞれ異なるCADシステムで作成されたデータをバーチャルなデジタル製品として表示、精査、マークアップできるようにすることで、製品ライフサイクル全体でのコラボレーションを促進します。

設計者にはそれぞれ使い慣れたCADシステムの使用を維持しながら、CADシステムを使用しない他のユーザには、もっと直感的なアプリケーションを使用して設計をレビューできるようにし、それぞれの生産性を確保します。

製品ライフサイクルに関わるすべてのユーザができるだけ早い段階で設計をレビューできるようにし、ライフサイクルにおける作業のやり直しをなくすことで市場投入期間を短縮することができ、ライフサイクル全体のコストを削減します。

コスト高となる物理プロトタイプを製作せず、設計者や他の関連するユーザがバーチャルなプロトタイプを何度も検討できるようにして、開発コストを削減します。

設計に詳しくないユーザであっても、直感的に分かるビジュアライゼーション・データを使用して作業できるようにします。

設計者は製品開発を進めながら、設計を精査することができます。

CADのマスター・ファイルよりも迅速かつ簡単に利用できる軽量なファイル・フォーマットであるため、全社的な利用が可能になります。

共通のビジュアライゼーション・フォーマットを使用することによって、何度もデータ変換を繰り返したり、データを再作成したりする必要がなくなるため、データの変換に伴うコストを削減することができます。

さまざまな用途向けのビジュアライゼーション・データフォーマットを管理する必要がなくなります。

JT テクノロジーとその重要性

JTは、高性能で軽量、かつ長期的な保存が可能なビジュアライゼーション・データとして設計、実装されています。JTは様々な顧客で実証済みの軽量なデータ・フォーマットであり、3Dビジュアライゼーションのデファクト・スタンダードとしてクラス最高の大規模アセンブリ機能を持つことでインタラクティブなモデリング・システムなどに採用され、自動車業界や航空宇宙業界などで広く使用されています。

また、JTフォーマットは高い柔軟性を持った、特定のCADシステムに依存しないニュートラルなフォーマットです。ほとんどの主要なMCADシステムから生成することができ、モデルの関連情報を完全に保持して表示することができます。更に、ファセット・データのみを保持して超軽量なデータにすることも、モデルに精密なジオメトリ、製品構造、属性、製品製造情報 (PMI)、幾何寸法公差 (GD&T)、アニメーションなど、数多くの情報を保持することもできます。

ハイエンド・メカニカルCADシステムでデータをJTフォーマットにして出力すれば、3Dモデルの効率的な表示とデータ交換を行うことができます。JTは、テクスチャ、ライティング、モーションをはじめ、レベル・オブ・ディテール (LOD) のための複数のテッセレーション生成もサポートしています。

JTテクノロジーは、特に今日の製品ライフサイクルをサポートするエンタープライズ規模のアプリケーション・システムに広く利用されています。そのため、JTは3Dビジュアライゼーション、コラボレーション、データ共有のためのデファクト・スタンダードの地位を占めています。その利用範囲の広さは、次のような数多くのアプリケーションやシステムで採用されていることから明らかです。

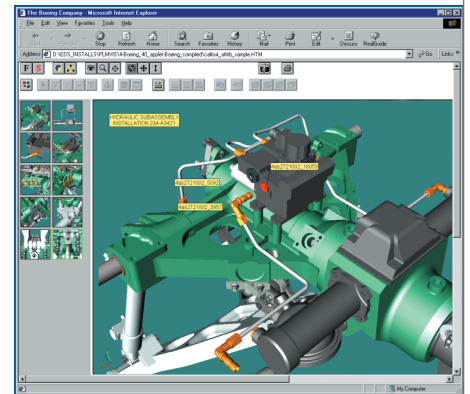
- ウェブ表示
- 2D/3D表示とマークアップ
- 全社的な品質管理
- デジタル・モックアップ
- デジタル・シミュレーション
- ファクトリ・シミュレーション
- バーチャル・リアリティ
- マルチCAD連携

JT Open Toolkit

JT Open Toolkitは、シーメンスPLMソフトウェアのPLM Componentsに含まれる製品で、幅広い利用を推進するためにオープンな設計となっており、JTデータの読み取り/書き込みができる手段を非常に低いコストでPLM業界全体に提供することを目的としています。JT Open Toolkitは、JT OpenメンバーにJTデータのパイプラインへのアクセスを容易にするために提供されている開発ツールキットです。JT Open ToolkitはC++ライブラリであり、ツールキット・クラスで使用できる豊富な機能を使用して、JTデータの作成や閲覧が可能なアプリケーションを作成できるようにします。このツールキットにはJTデータにアクセスするための必要なテクノロジーがすべて用意されており、開発者は独自のアプリケーション内にJTデータの作成/操作を可能にするアプリケーション・ロジックを追加していくことになります。

シーメンスPLMソフトウェアは、“level playing field” (平等な競争) のビジネス・モデルに基づいて長年にわたりさまざまな製品やサービスを提供しています。Parasolid®もそのひとつであり、独立系ソフトウェア・ベンダーへの提供が長年行われています。シーメンスPLMソフトウェアは、Parasolidや他のオープン・ツールの提供を通じて得た信頼に基づいて、今後もJT Openメンバー全員に同機能のJT Open Toolkitを同時期に、同レベルのサポート・サービスで平等に提供していきます。

JT Open Toolkitは年2回のバージョンアップを目指しており、その都度ダウンロードして入手するようになります。現在のリリースは、Windows、HP-UX、Sun Solaris、AIX、SUSE Linuxの各OSに対応し、32ビットと64ビットのハードウェア・プラットフォームをサポートしています。



JT Open Toolkitは、旧バージョンを含む既存のすべてのJTデータをサポートするように開発が進められます。新しい機能はJTデータ・ストリームに追加されるため、既存のアプリケーションへの影響はありません。リリース間の互換性が完全に保証されるため、既存のアプリケーションを再構築する必要性は最小限であり、ほとんどのリリースがプラグ&プレイ方式の互換性が取られるため、統合作業を行う必要がありません。

JT Openメンバーは、JT Openプログラムを通じて、またはシーメンス・カスタマ・サービスに直接連絡して、JT Open Toolkitに追加すべき拡張機能を要求することができます。シーメンスPLMソフトウェアの製品を既に使用しているメンバーは、シーメンス・カスタマ・サービスの担当者と協力して、JT Open Toolkitに追加すべき機能拡張の要求を表明することができます。または、JT Open Toolkitに追加すべき機能拡張に関して意を同じくする他のJT Openメンバーと共同で要求を表明することもできます。

シーメンスPLMソフトウェアは、JT Openの代表者はもちろん、シーメンス・カスタマ・サービスを介してJT Open Toolkitをサポートします。問題や課題の総合的な追跡システム、FAQの知識データベース、報告された問題/解決された問題、有用な機能、テクニックなどのサポートを提供します。

JT Openのメンバー専用ウェブ・ページには、実装方法に関する情報、JT Open Toolkitの機能拡張に関する計画の詳細、技術的な質問に答えるフォーラムなどが用意されています。

JT Open Toolkit のライセンス

JT Openのベンダー・メンバーはJT Open Toolkitを使用して、自社のアプリケーションにJTデータの読み取り/書き込み機能を追加し、JT Openの企業メンバーに販売することができます。この場合、ロイヤルティをシーメンスPLMソフトウェアに支払う必要はありません。

JT Openの企業メンバーは、ベンダー・メンバーからこのようなアプリケーションを購入できるほか、自社開発のソフトウェアにJTデータの読み取り/書き込み機能を追加して、全社的に使用することもできます。

ベンダー・メンバーも企業メンバーも、事業規模(年間売上)に応じた初回入会費と年間維持費を支払います。JT Open Toolkitを使用して開発したアプリケーションをJT Openメンバーに販売または自社内で使用する場合は、ロイヤルティを支払う必要はありません。ベンダー・メンバーがJT対応のアプリケーションをJT Openメンバー以外に販売する場合は、売上に応じたロイヤルティを支払うことになります。

JT Openの運営検討委員会と技術検討委員会は、適切な手順に従って、JT Openの運営やツールキットの拡張機能に関する情報をJT Openのメンバーから収集しています。

検討委員会の規定

2つの検討委員会はJT Openプログラムの諸活動の調整を行う任に当たっています。運営検討委員会はJT Openコミュニティの事業と運営に関する利害を代表し、技術検討委員会はJT Openコミュニティの技術的な利害を代表します。いずれの委員会も、JT Openプログラムの下記の事項に関し勧告する特権を持っています。

- プログラムの運営と活動
- メンバー間の交流
- 機能の拡張と改善
- 販売、マーケティング活動

さらに、各委員会はそれぞれの特権を遂行するための特別な責任を担っています。

運営検討委員会：

- 年2回の会合を主催
- JT Openプログラムの総合的な運営に関する検討
- ハイレベルな運営方針の提示
- ビジネス・ニーズや重要な要件についてのハイレベルな情報の提供
- プログラム改善要求の評価と優先順位付け
- メンバーシップに関する課題の検討と勧告

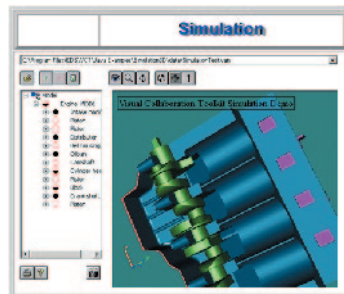
技術検討委員会：

- 年2回の会合を主催
- JT Openプログラムの技術に関する検討
- ビジュアライゼーションに関するテクノロジーについてのハイレベルな技術方針の提示と、メンバーから提出された技術的な改善要求の調整
- 技術的な議題についての検討

これらの責任から分かるように、両委員会はJT OpenプログラムとJT テクノロジーの改善に関するさまざまな提案を収集し、評価し、検討するという重要な役割を担っています。一般的に、メンバーから寄せられた提案は次の2通りの方法を経て実現されます。

- 個々のメンバーは、改善提案をシーメンスPLMソフトウェアに直接提出することができます。
- 意を同じくする複数のメンバーは、運営検討委員会、技術検討委員会、または他の委任を受けたメンバーと共同で改善提案をシーメンスPLMソフトウェアに提出することができます。

JTテクノロジーの発展、JTデータ・フォーマットの普及、JTがもたらすメリットの共有に取り組むユーザ、ソフトウェア・ベンダー、その他関係団体からなるコミュニティ、JT Openに今すぐご入会ください。今日の製品ライフサイクルを力強く支援する世界で最も刺激的なフォーラムのひとつであるJT Openへの入会方法やその他詳細については、最寄りのシーメンスPLMソフトウェアまたは販売代理店にお問い合わせください。



SIEMENS

シーメンスPLMソフトウェア

〒151-8583 東京都渋谷区代々木2-2-1 小田急サザンタワー

TEL 03-5354-6700 FAX 03-5354-6780

E-mail:jp_marcom@ugs.com

■ お問い合わせ